

■ 要約

- ✓ PVCJは、計7社のPVパネルのリサイクラーを、ルート施設として認定している。
- ✓ 2024年度、ルート施設全体で計83トンの廃PVモジュールのリサイクル処理を完了した。
- ✓ 2023年度の処理量が56トンであったことから、2024年度の処理量は2023年度に比べて、約1.5倍増加した。
- ✓ リサイクル処理の結果、以下の二次資源を廃PVモジュールから回収した。
 - J-BOX・ケーブル：2トン
 - アルミ枠：13トン
 - ガラス：47トン
 - ガラス付着セル/EVAシート^(注1)：21トン
- ✓ ガラス付着セル/EVAシートは更に破碎・選別を行い、選別後の二次資源については、非鉄金属製錬で有害物質・有価金属の回収を行うとともに、残渣（主に樹脂類）については適正処理を行っている。

■ 集計方法

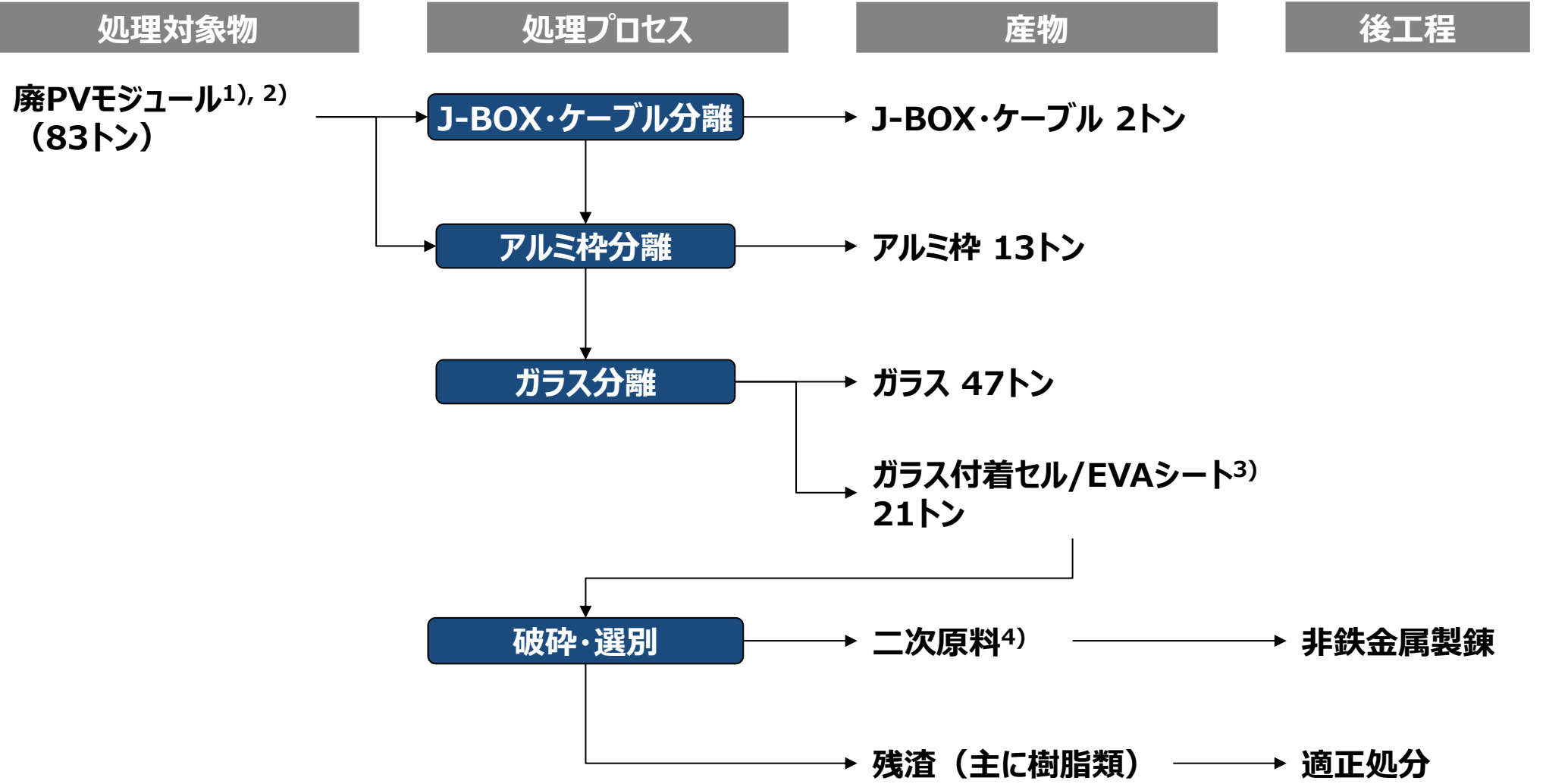
- ✓ 集計対象の期間
 - ・ 2024年4月1日から2025年3月31日
- ✓ 集計対象のPVCJ認定ルート施設（五十音順）
 - ・ エコシステム花岡(株)、金城産業(株)、(株)白川商店、(株)信州タケエイ、(株)宮城衛生環境公社、(株)モリヤ、リサイクルテック・ジャパン(株)

■ その他

- ✓ 環境省の調査によると、約2,000トン/年の廃PVモジュールが国内でリサイクル処理されている。PVCJ認定ルート施設は、国内の廃PVモジュールのリサイクル処理量の4パーセントをカバーしていると推測される。

（注1）PVモジュールからJ-BOX・ケーブル、アルミ枠、一定程度のガラスを除去後に残る物を、「セル/EVAシート」と呼称している。有害物質の鉛を含む。

PV CYCLE JAPAN認定ルート施設での廃PVモジュールの処理実績



1) 2024年度内に処理が完了した廃PVモジュールを集計対象としている。
2) リサイクル処理とは別に、PVCルート施設では、計11,000枚の使用済太陽光パネルのリユース検査を行い、計11,000枚の太陽光パネルを再利用先に出荷した。
3) PVモジュールからJ-BOX・ケーブル、アルミ枠、一定程度のガラスを除去した後に残る物を、「セル/EVAシート」と呼称している。有害物質の鉛を含有する。
4) 結晶シリコン、銅、銀、鉛、およびスズを含む。